

# 市町村体力向上アクションプラン(平成30年度版)

(別紙様式2)

(佐伯市)教育委員会

## 1 体力の状況

ア 平成29年度体力・運動能力等調査結果(県調査結果から)

○小学生  
 ・全国平均以上の割合(達成率)は64.6%(62/96)であった。(H28は62.5%)  
 ・ボール投げは男女ともに全学年全国平均以上を達成した。

○中学生  
 ・全校平均以上の割合(達成率)は43.8%(21/48)であった。(H28は37.5%)  
 ・ボール投げは男女とも全学年全国平均以上を達成した。  
 ・長座体前屈が中3女子以外の全学年男女で全国平均以上を達成した。

イ 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果(H28データ)

○総合評価C以上の児童生徒の割合

・小学校男子(5年)	79.0%	(全国70.1%)	大分県76.3%
・小学校女子(5年)	81.3%	(全国75.1%)	大分県80.2%
・中学校男子(2年)	74.8%	(全国71.1%)	大分県75.9%
・中学校女子(2年)	92.2%	(全国86.6%)	大分県86.9%

○児童生徒・学校質問紙調査結果

・小学生男子(5年)	「運動が好き」	81.7%	(全国74.0%)	大分県75.1%
	「健康に運動は大切」	84.8%	(全国78.4%)	大分県77.9%
	「体育の授業は楽しい」	75.5%	(全国72.7%)	大分県75.5%
・小学生女子(5年)	「運動が好き」	63.7%	(全国56.4%)	大分県54.2%
	「健康に運動は大切」	76.3%	(全国74.1%)	大分県70.2%
	「体育の授業は楽しい」	62.7%	(全国59.3%)	大分県55.5%
・中学生男子(2年)	「運動が好き」	73.5%	(全国65.0%)	大分県69.2%
	「健康に運動は大切」	78.9%	(全国75.8%)	大分県78.3%
	「体育の授業は楽しい」	68.4%	(全国49.8%)	大分県58.2%
・中学生女子(2年)	「運動が好き」	47.6%	(全国48.0%)	大分県48.0%
	「健康に運動は大切」	65.2%	(全国68.2%)	大分県68.9%
	「体育の授業は楽しい」	47.9%	(全国38.5%)	大分県42.6%

ウ 当該市町村の児童生徒の特徴的な様子

小学生はスポーツ少年団、中学生は部活動の加入率が全国や県と比較しても高いが、運動の愛好度は年々下がっている。

## 2 平成29年度の取組の検証

平成29年度の指標	達成状況・成果等
<b>達成指標</b> 大分県体力・運動能力調査において「運動が好き」と答える児童生徒の割合 小学校男子…81.1% 小学校女子…67.0% 中学校男子…74.5% 中学校女子…50.8% 大分県体力・運動能力調査において「平均値が全国を上回るもの、もしくは優位さが見られないもの」の割合 小学校男子…90.4% 小学校女子…92.5% 中学校男子…94.6% 中学校女子…50.8% 大分県体力・運動能力調査の総合評価におけるD・Eの生徒の割合 小学校男子…19.3%以下 小学校女子…14.9%以下 中学校男子…23.7%以下 中学校女子…7.9%以下 大分県体力・運動能力調査において小学校は「よく残す」児童の割合、中学校は特別を定めて「残さない」児童の割合 小学校男子…6.6%以下 小学校女子…5.9%以下 中学校男子…6.2%以下 中学校女子…6.9%以下	小学校男子…73.8% 小学校女子…55.3% 中学校男子…68.0% 中学校女子…44.9% どの学年も目標を未達成で昨年よりも低下した。 小学校男子…89.6% 小学校女子…79.2% 中学校男子…87.5% 中学校女子…62.5% 中学校女子以外目標を未達成だが、小学男子は昨年度よりも向上した。 小学校男子…19.9% 小学校女子…17.4% 中学校男子…23.2% 中学校女子…12.7% 中学校男子以外目標を未達成だが、中学校女子以外昨年よりも向上した。 小学校男子…6.6% 小学校女子…9.7% 中学校男子…9.5% 中学校女子…8.3% 小学校男子以外目標を未達成で、小学校男子以外県平均以上だった。
<b>取組指標1</b> 児童生徒の運動やスポーツへの運動愛好度を高めるための具体的な取組を行った学校の割合 小学校…90% 中学校…90%	小学校…100% 中学校…100% ※佐伯市独自アンケート調査 すべての学校が児童生徒の愛好度を高める取組を実施している。しかし、児童生徒の愛好度は低下している。
<b>取組指標2</b> 体力調査の結果に基づいて、各校の課題を解決するための「一校一実践」の取組(走り重点的)を行った学校の割合 小学校…90% 中学校…90%	小学校…94.7% 中学校…100% ※佐伯市独自アンケート調査 ほとんどの小・中学校が目標を達成。一校一実践の取組は定着し、各学校独自性を生かした体力、運動能力の向上策を実行している。
<b>取組指標3</b> 運動が苦手な児童生徒の体力、運動能力を高めるための具体的な取組を行った学校の割合 小学校…80% 中学校…80%	小学校…94.7% 中学校…90.9% ※佐伯市独自アンケート調査 9割以上の学校が、運動が苦手な児童生徒のための具体的な取組を行っている。しかし、D・E層の児童生徒の割合は全国や県と比較しても高い。
<b>取組指標4</b> 家庭と連携した、生活習慣の改善(寝生活、起床・就寝時間)に関する具体的な取組を行った学校の割合 小学校…90% 中学校…80%	小学校…89.8% 中学校…81.8% ※佐伯市独自アンケート調査 目標を達成している学校は9割を下回り、学校間での取組の差が大きくなっている。結果として大分県体力・運動能力調査の生活習慣に関する項目も望ましくない結果が増加している。

【総括】  
 佐伯市の児童生徒の体力・運動能力に関しては、大分県体力・運動能力調査における全国平均以上の項目の割合がH29が57.6%(83/144)、H28が54.2%(78/144)で昨年度と比較して向上しており、各学校の体力向上に対する取組の成果が見える。しかし、運動やスポーツに対する愛好度が顕著に低下しており、原因の分析と取組の見直しが必要である。生活習慣に関して、多くの項目が県平均に比べて望ましくない状況にあり、これまで以上に学校と家庭が連携した取組の必要性が増している。

## 3 平成29年度の取組状況

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

○教育委員会  
 ・取組の方向性、目標指標、各校の取組事例の共有→4月当初の校長会・教頭会等での共通理解  
 ・体育専科教員の活用→2名を管内全小学校で活用できる実施要項を作成  
 ・県内外の優良事例の紹介→体育主任会議(年2回)にて県体育保健課より「一校一実践」の優良事例を紹介  
 ・「一校一実践」の取組状況の確認

○学校  
 ・学校だよりやホームページを利用して保護者や地域への情報発信  
 ・体力向上に係る研修・会議等の実施  
 ・体育専科教員・栄養教諭の活用(派遣による指導)・・・(体専50回)(栄教104回)  
 →ICT機器や言語活動を取り入れたり、児童の運動能力を十分発揮させ、児童が意欲的に運動に取組む授業を管内に周知  
 ・体育専科教員がスポーツテスト前に設置校でスポーツテストの実施方法について研修を行い周知  
 ・PTAと連携した基本的な生活習慣の向上への取組  
 ・体力・運動能力等調査結果に基づく「一校一実践」の取組推進→客観的データ、指標を盛り込んだ体力向上プランを作成している学校(100%)

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

○教育委員会  
 ・体育主任会議(年2回)の開催(役割の見直し、研究推進、成果交流)→5月第1回体育主任会議開催:望ましい「一校一実践」の在り方、優良事例を紹介  
 ・体育専科教員の活用方法の工夫 → 多くの学校で活用できるシステム作り:2人を全小学校で活用可能な実施要項  
 → 体育主任会議での体育専科教員による体力測定に係る留意事項の実践研修・報告書の発表による取組の選流

・一校一実践に係る研修会、情報交換会 → 第2回体育主任会議での「一校一実践」に係る情報交換

○学校  
 ・体育主任を中心とした学校全体での組織的な取組としての「一校一実践」の推進→客観的分析、指標に基づいた体力向上プランと運動した一校一実践の推進

4 課題(平成30年度に向けて)

○小学校 ※平成29年度大分県体力・運動能力調査結果より  
 ・50m走の達成度が男女合わせて小6女子以外全国平均以下なので、走力を向上させる取組が必要である。  
 ・20mシャトルランは男女ともに4～6年生が全国平均以下なので、持久力を向上させる取組が必要である。  
 ・総合評価におけるD・Eの児童の割合が男女ともに全国平均以下であるが県平均以上なので、運動の苦手な児童への効果的な指導が求められる。  
 ・女子は運動能力の割合に愛好度が低く(男子73.8%、女子55.3%)、授業改善により愛好度が高まれば、さらに体力が伸びる可能性がある。  
 ・食事、睡眠時間、就寝早寝、起床早起き、テレビの視聴時間について県平均より低く、家庭と連携した生活習慣改善の取組が必要である。

○中学校  
 ・20mシャトルランが男女とも全学年全国平均以下なので、持久力を向上させる取組が必要である。  
 ・立ち幅とびは中1女子以外、反復横とびは中2男子以外、上体起こしは中2男子以外が全国平均を下回っているため、瞬発力や敏捷性、筋力を総合的に向上させるための取組が必要である。  
 ・総合評価におけるD・Eの生徒の割合が男女ともに全国・県以上なので、運動の苦手な児童への効果的な指導が求められる。  
 ・女子の運動への愛好度が男子に比べて低いので(男子68.0%、女子44.9%)、女子の運動への意欲を向上させる取組が必要である。  
 ・食事、睡眠時間、就寝早寝、起床早起き、テレビの視聴時間について県平均より低く、家庭と連携した生活習慣改善の取組が必要である。

## 5 平成30年度の目標及び指標

【目標】  
 ・児童生徒への運動やスポーツへの愛好度を高める指導の工夫  
 ・体力調査の分析に基づいた授業改善、効果的な「一校一実践」の取組による体力の向上  
 ・運動が苦手な児童生徒の意欲を高める指導の工夫  
 ・家庭(PTA)と連携した児童生徒の基本的な生活習慣の向上

達成指標	取組指標
県体力・運動能力調査において「運動が好き」と答える児童生徒の割合 ※指標は過去3年間の佐伯市の最高値	児童生徒の運動やスポーツへの運動愛好度を高めるための具体的な取組を行った学校の割合
H30 小男76.1% 小女62.0% 中男71.2% 中女47.8%	H30 小学校…100%(19/19) 中学校…100%(12/12)
H29 小男73.8% 小女55.3% 中男68.0% 中女44.9%	H29 小学校…94.7%(18/19) 中学校…100%(12/12)
	※検証方法…市教委独自のアンケート集計(11月実施)
県体力・運動能力調査において「平均値が全国を上回るもの」の割合 ※指標は小・中学校男女それぞれ1種目向上させた割合	体力調査の結果に基づいた、各校の課題を解決するための「一校一実践」の取組(走り重点的)を行った学校の割合
H30 小男66.7%(32/48) 小女66.7%(32/48) 中男54.2%(13/24) 中女41.7%(10/24)	H30 小学校…100%(19/19) 中学校…100%(12/12)
H29 小男64.6%(31/48) 小女64.6%(31/48) 中男50.0%(12/24) 中女37.5%(9/24)	H29 小学校…100%(19/19) 中学校…100%(12/12)
	※検証方法…市教委独自のアンケート集計(11月実施)
県体力・運動能力調査の総合評価におけるD・Eの生徒の割合 ※指標は小男女はH29県平均、中男はH28全国平均、中女はH28佐伯市平均	運動が苦手な児童生徒の体力、運動能力を高めるための具体的な取組を行った学校の割合
H30 小男19.8%以下 小女17.1%以下 中男21.8%以下 中女10.9%以下	H30 小学校…100%(19/19) 中学校…100%(12/12)
H29 小男19.9% 小女17.4% 中男23.2% 中女12.7%	H29 小学校…94.7%(18/19) 中学校…91.7%(11/12)
	※検証方法…市教委独自のアンケート集計(11月実施)

## 6 平成30年度の行動計画

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

○教育委員会  
 ・4月当初の校長会、教頭会等で取組の方向性、目標指標、各校の取組事例を共有する。  
 ・管内全小学校19校で体育専科教員を活用できる実施要項を作成し、課題のある学校を中心に派遣する。→体育専科教員を2名希望  
 ・年間2回の体育主任会議を開催し、5月は一校一実践の効果的な取組について情報共有するとともに、体力テストの実施方法や効果的な体づくり運動について実技講習を行い、2月は小学校体育専科教員と中学校体育推進教員による実践発表を行い、指導力の向上につなげる。  
 ・アンケートをもとに「一校一実践」の取組状況を確認するとともに、体育主任会議において、各校の取組状況と課題を持ち寄り検証することで、ブラッシュアップを図る。  
 ・大分県中学校保健体育研究発表大会の授業改善等に係る成果、小学校体育専科教員や中学校体育推進教員の取組事例を佐伯市小中学校体育部会と連携しながら管内に普及させる。  
 ・小学校体育専科教員や中学校体育推進教員の取組を紹介するための授業公開を行う。

○学校  
 ・学校だよりやホームページを利用して、保護者や地域へ実態や取組、改善状況を発信する。  
 ・体力向上に係る研修・会議等を実施する。  
 ・自校の課題を解決するために計画的に小学校体育専科教員を活用する。  
 ・中学校体育推進教員を活用した授業改善を進め、取組内容を発信する。  
 ・客観的データ、指標を盛り込んだ体力向上プランを作成し、「一校一実践」の取組を進め、PDCAサイクルに基づいた検証、改善を行う。

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

○教育委員会  
 ・年間2回の体育主任会議を開催し、「一校一実践」の優良事例を紹介したり、グループ協議を行うことで、役割の見直し、研究推進につなげる。  
 ・小学校体育専科教員の活用して、各小学校の体力向上に向けた組織的な取組を検証する。  
 ・教育事務所と連携し、定期訪問や学校説明書により、各校の体力向上の組織的取組について進捗状況を確認する。

○学校  
 ・体育主任を中心とした学校全体での組織的な取組としての「一校一実践」を推進する。

## 7 平成30年度の人的支援の希望内容

①体育専科教員の配置希望  
 ・体育専科教員2名の配置希望

ア 本務校  
 佐伯市立渡町台小学校 佐伯市立鶴岡小学校

イ 訪問校  
 配置校以外の佐伯市内の小中学校 ※課題のある学校に重点的に派遣

②希望に基づいた活用計画

月	内 容
4月	佐伯市第1回体育専科教員連絡会(H30年度の取組の説明) 体育専科教員派遣希望調査(第1期 5月～7月)
5月	佐伯市第1回体育主任会議
6月	
7月	体育専科教員授業公開①
8月	体育専科教員派遣希望調査(第2期 9月～12月)
9月	佐伯市第2回体育専科教員連絡会(2学期の取組について)
10月	
11月	体育専科教員授業公開②
12月	体育専科教員派遣希望調査(第3期 1月～3月)
1月	佐伯市第3回体育専科教員連絡会(2学期の取組について)
2月	佐伯市第2回体育主任会議(レポート発表)
3月	年間の取組と効果の総括 ※ 年間3回の体育専科教員連絡会で取組の成果と課題について検証 ※ 年2回の体育主任会議で取組内容を発信 ※ 佐伯市の授業改善のための年間2回(1人1回)の授業公開 ※ 授業公開については中学校にも周知 ※ 各学校への派遣については、学校の体力運動能力の課題に応じた指導 ※ TT指導を原則とし、各学校で継続的に取り組める内容を指導 ※ アクションプランの作成について協議